

園芸タイムリー情報

《5月中・下旬版》

令和元年 5月15日発行 第1号
 上川農業改良普及センター
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

1 施設栽培

- 気象情報に留意し、低温が予測される場合はハウスやトンネルを早めに閉めるなどし、作物の生育適温を確保しましょう。
- 日中急激にハウス内温度が上昇することがあります。高温障害や生理障害が助長されますので、被覆資材等を活用し作物の生育適温を確保しましょう。
- 高温・乾燥時は、作物の生育や土壌の水分状況をしっかり確認し、適切なかん水管理に努めましょう。
- 今後、田植え作業等で忙しくなるのでハウス管理には十分注意しましょう。

2 露地栽培

- 天候不順等でほ場準備が遅れる場合、苗の老化防止に努めるとともに、地温や土壌水分を十分確保してから定植しましょう。
- 局所的な大雨が年々増えています。明きょ等を事前に設置しておきましょう。

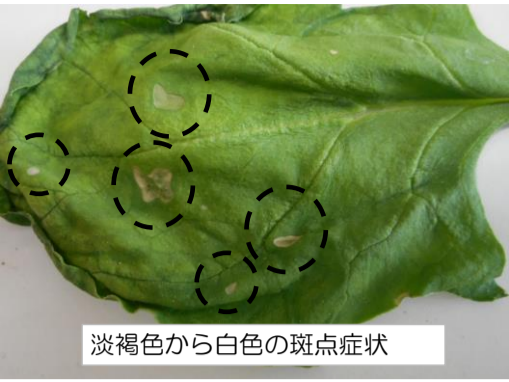
※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	きゅうり・すいか・メロン																				
病虫害 生理障害名	 <p>菌核病菌が検出された すいかの葉の症状</p>																				
菌核病																					
発生状況																					
少発生																					
発生時期																					
5月上旬～																					
発生の状況・要因																					
<ul style="list-style-type: none"> ・つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し、黒色の菌核を形成する。 ・20℃前後の比較的低温が続く、多湿の場合に発生が多くなる。 ・すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。 																					
対策																					
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・着果期前より予防防除を実施する。 ・被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●スミレックス水和剤 <table border="0"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>6回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> <p>※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がないので使用できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロプラール水和剤 <table border="0"> <tr> <td>きゅうり・すいか・メロン</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>4回以内</td> </tr> </table> <p>※スミレックスとロプラールは同系統薬剤であるため、いずれかの薬剤を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カンタストライフフロアブル <table border="0"> <tr> <td>きゅうり・すいか・メロン</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> 		きゅうり	1,000～2,000倍	収穫前日まで	6回以内	すいか	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	メロン	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	きゅうり・すいか・メロン	1,000倍	収穫前日まで	4回以内	きゅうり・すいか・メロン	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内
きゅうり	1,000～2,000倍	収穫前日まで	6回以内																		
すいか	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内																		
メロン	2,000倍	収穫前日まで	3回以内																		
きゅうり・すいか・メロン	1,000倍	収穫前日まで	4回以内																		
きゅうり・すいか・メロン	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内																		

作物名	たまねぎ								
病虫害 生理障害名	 <p>↑発生初期の症状</p>								
ネギハモグリバエ									
発生状況									
発生に注意									
発生時期									
5月下旬～									
発生の状況・要因									
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の発生は5月下旬頃からとなる。 ・発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点（写真上）を生じる（食痕・産卵痕など）。 ・幼虫が心化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。 ・葉数の少ない株では著しい生育不良や枯死株が発生する。 									
対策									
<ul style="list-style-type: none"> ・白い線状の幼虫被害が発生してからでは、防除効果が得られにくい。 ・5月中旬から成虫の食痕を観察し、食痕を観察したら速やかに薬剤防除を行う。 ・1回目の発生は、合成ピレスロイド剤によりアザミウマ類との同時防除を行う。 ・7～10日間隔で2回散布する。 ・葉身部全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アグロスリン乳剤 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>2,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>5回以内</td> </tr> </table> ●アディオン乳剤 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>3,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>5回以内</td> </tr> </table> <p>※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくびか 5,000倍）。</p>			2,000倍	収穫7日前まで	5回以内		3,000倍	収穫7日前まで	5回以内
	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内						
	3,000倍	収穫7日前まで	5回以内						

作物名	トマト類（大玉・中玉・ミニ）
病虫害 生理障害名	 <p>果実での発生(左)と 茎葉での発生(右)</p>
灰色かび病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
4月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・枯死部分や芽かきの傷口等から感染することが多く、茎葉や果実等に広がる。 ・発病適温は20℃前後で、多湿時や茎葉の過繁茂で風通しが悪くなった場合に発生が増える。 ・夜温が低く、朝に果実が結露するような状況で腐敗果が増加する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・枯れた花弁や被害茎葉・果実は見つけしだい除去し搬出する。 ・芽かきや摘葉は、晴天日の午前中に終わらせ傷口を乾かす。 ・耐性菌発生リスクが低いダコニール1000やベルコートフロアブル、微生物剤等による予防的な薬剤防除を実施する。 	

作物名	トマト類（大玉・ミニ・中玉）								
病虫害 生理障害名	 <p>葉裏のかび 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難)</p>								
すすかび病・葉かび病									
発生状況									
発生に注意									
発生時期									
5月中旬～									
発生の状況・要因									
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は6月上旬からすすかび病の発生が見られた。 ・昨年発生したほ場では本年も発生する可能性が高い。 ・両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。葉かび病がやや盛り上がったかびを形成するのに対して、すすかび病では平面的でやや色の濃いかびを形成し、多発時には葉表にもかびが見られる。 									
対策									
<ul style="list-style-type: none"> ・整枝や摘葉により通気性の確保に努める。 ・発生前からダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬を中心とした予防的防除を定期的に行う。 ・発生が見られた場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤等での防除を行う。 <p><発生時の防除の一例>（大玉・ミニ・中玉共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 <table border="0"> <tr> <td>すすかび病・葉かび病</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> ●シグナムWDG（混合剤） <table border="0"> <tr> <td>すすかび病・葉かび病</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> 		すすかび病・葉かび病	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内	すすかび病・葉かび病	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
すすかび病・葉かび病	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内						
すすかび病・葉かび病	2,000倍	収穫前日まで	2回以内						

作物名	ほうれんそう
病虫害 生理障害名	
褐斑病	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
4月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 糸状菌の一種。被害葉内で越冬し、分生子が飛散して空気伝染する。生育適温25～30℃、分生子の発芽最適温度は25～28℃である。 症状は、葉表面に黄褐色の斑点を生ずる。やがて周囲がやや褐色で明瞭な円形から楕円形の病斑となり、中央部は写真のように淡褐色から白色となる。 外観上は、カリ欠乏などの生理障害や高温による葉焼けと類似する場合がある 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 発病株は見つけしだい早めに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。 収穫後の残さを、できるだけきれいにほ場外に持ち出す。 残さは、胞子が飛散しないよう埋没処理する。 <p>※症状が疑われる場合はお住まいの地域のJAまたは普及センターまでご連絡をお願いします。</p>	

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
 気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
 (不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
 ◆掲載されている農薬情報は、平成31年4月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 【農作業事故編】—農作業事故の防止は日頃の安全確認から— □■□■□■□■□■

- 農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- 危険な場所（視界不良や段差など）が無いが、日頃から確認を行いましょう。
- 危険を伴う作業（ハウスビニール脱着など高所作業等）を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましょう。